

# 東海道五拾参次

橋本 たねひろ

## 6、藤澤一遊行寺 (ゆぎょうじ) 相模国・神奈川県藤沢市

副題の遊行寺は藤澤の名刹で、背景の小高い山に描かれています。東海道は遊行寺下に沿って坂を下り、境川の遊行寺橋を渡ると戸塚から7.9 kmの藤澤宿で、橋のもとには客引きの女達、橋上は大山詣での講中で、先頭は奉納する木製の大太刀をかついだ男、まっすぐ進めば大山道、左に曲がれば江ノ島道で一の鳥居が描かれており、江ノ島詣での座頭4人が連なって向かっている図です。



大山は女人禁制ですが、江ノ島は弁財天が女性で芸能の神様であるため三味線や踊りの師匠が娘達とともに賑やかに参詣しました。

## 7、平塚一繩手道 相模国・神奈川県平塚市



田んぼの中の長い道(繩手道)を、空の駕籠をかついで2人の駕籠かきが持ち場の宿場に戻っている、裸の町飛脚がすれ違いにすっ飛んで行く、道標(棒鼻という)には「ここから東海道平塚宿」と書いてあり、藤澤から13.7 kmで到着します。

背景は大磯の高麗山、脇に小さく白い富士山が覗いている、といった図です。

## 8、大磯一虎ケ雨 相模国・神奈川県中郡大磯町

虎ケ雨とは旧暦5月28日に降る悲しい雨のことです。曾我兄弟が仇討ちを成就し、自らも果たした日がこの日であり、兄弟の兄曾我十郎の恋人虎御前の悲嘆の涙雨ということになっています。そば降る雨を木の下によけてたたずむ馬子、荷駄馬、奥の旅人もうなだれて雨上がりを待つ様子、すぐ先には宿場が見え、平塚からわずか2.9 km、遠景の相模湾には漁り船が見えています。



## 9、小田原一酒匂川 (さかわがわ) 相模国・神奈川県小田原市



川越人足の手により輿(こし)ごと渡る貴人、肩車で渡る中間(ちゅうげん)、平鞆台に乗る旅人、遠景は箱根山で左端の麓に小田原城と宿場が見えます。小田原は室町時代北条氏の居城として栄え、難所箱根を前に宿泊する旅人も多く栄えた宿場で、大磯から15.7 kmありました。

名物「薬のういろう」は中国の元(げん)の外郎家が売り出し、後菓子を作成、「ういろう」と呼ばれています。

# 東海道五拾参次

橋本 たねひろ

## 10、箱根一湖水図 相模国・神奈川県足柄下郡箱根町

箱根峠はその険しさから「箱根八里」と呼ばれ、東海道中随一の山の難所として知られています。

箱根宿入り口には関所が置かれ、山中には温泉郷「箱根七湯」があり江戸からの湯治客で賑わいました。絵は、箱根山を大胆に配し、岩肌をモザイク模様で色分けし量感、質感、立体感を演出しており、ヨーロッパ近代絵画に大きな影響を与えました。荒々しい山と対照的に芦ノ湖は静謐な水をたたえ、白い富士が後方に控えています。

大名行列が細い上り坂を進んでいます。小田原から16.6 km、次の三島まで14.8 km合計31.4 kmで八里の山道となります。

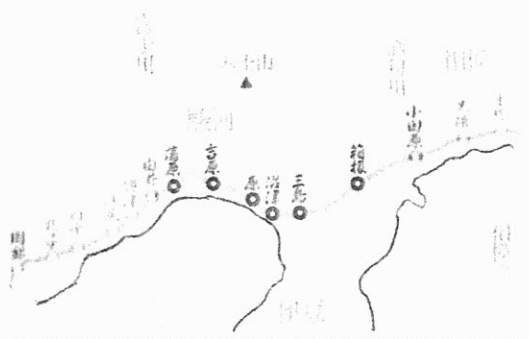


## 11、三島一朝霧 伊豆国・静岡県三島市

三島宿は、東国に下る旅人が箱根越えを前に足を止めるため、多くの宿泊客で賑わいました。

三島は伊豆国唯一の宿場で、今は三島から静岡県になります。絵は三島宿を出て箱根へ向かう旅人で、三島明神の一の鳥居前を山駕籠に乗った人、その荷を担ぐ従者、乗掛馬の旅人が描かれています。

早朝の睡魔と肌寒さのため旅人はうつむき加減で袖口に手を入れ腕組みしており、馬子も蓑を体に巻き付けています。彼ら以外は霧がかかって、濃淡のシルエットで表現され、早朝の寒さが強調されています。



## 12、沼津一黄昏図 駿河国・静岡県沼津市

四国の金比羅宮に奉納する天狗面を背負った男、手に柄杓を持つお伊勢参りの女の親子が狩野川沿いを沼津宿に向かう、彼らを上ったばかりの月が照らしており、木立の間から見える、三島から5.9 kmの宿場はもう目の前です。



# 東海道五拾参次

橋本 たねひろ

- 13、原一朝乃富士 駿河国・静岡県沼津市  
天高くそびえる富士は画面の外にはみだし堂々として見えます。富士を仰ぎ見ている女の親子、おそらく富裕商人の妻子であろうか、天秤棒の荷物を持つ男はお供です。二羽の鶴が湿地で餌をあさっています。ここは原宿を出て次の吉原宿に向かう途中の浮島ヶ原と呼ばれる広大な湿地帯です。原宿は沼津から5.9 kmの宿場ですが、繁盛した宿場とは言い難いようです。



- 14、吉原一左富士 駿河国・静岡県富士市  
東海道を京に上るとき富士山は右に見えるのが普通です。原宿から吉原宿まで11.8 kmですが、吉原の手前約1 kmの元吉原付近で東海道は北上するため、その際富士が左に見えることになり、これを左富士と言います。松並木の街道を、武家の子供三人を乗せた「三宝荒神」と呼ばれる馬が馬子に引かれゆっくりと進んでいます。二人の子は左富士を見ているようですが、右端の子はうとうと居眠りしているようです。



- 15、蒲原一夜乃雪 駿河国・静岡県静岡市清水区  
しんしんと音もなく降り積もる夜の雪、すばめた傘、二人の蓑（みの）にも雪が積もっている、左の崖の右に静かに宿場がならんでいる図で、木版画の「静」の傑作とも言われています。しかし、温暖なこの地方にあまり雪は降らない、また該当する地形も見当たらないことから別の地方ではないかとの研究もあります。吉原から蒲原まで11.2 kmありました。



- 16、由井（由比）一薩捶嶺（さったれい） 駿河国・静岡県静岡市清水区  
蒲原から由井まで3.9 km、由井を過ぎて次の興津へ向かう途中にある薩捶山中腹の峠の急坂を上り下りする難所ですが、眼下に駿河湾を望み、富士山が迫る絶景の観光スポットで、今も海沿いの国道、鉄道を下に見て富士を撮影するポイントになっています。二人の旅人が崖の上から富士や海上の千石船など景色を堪能していますが、少し腰が引けています。反対方向に向かう杣人は薪を背負い、素知らぬ顔で上って行きます。

